

幾代会 観 察 会 (2022年7月) の ま と め

- ◆日 時 2022.7.3(日)
- ◆散策場所 御岳山
- ◆ポイント クサアジサイを求めて
- ◆散策ルート JR 御嶽駅～バス停ケーブル下～御岳神社二の鳥居～ろくろっ首～お昼～バス停ケーブル下～JR 御嶽駅
- ◆参加者 土方、羽深、石川、太田、、大村(ゲスト参加)と越前の6名。敬称略、下見6月20日 4名



◆感想 参加者からの一言

- ・クサアジサイが初めてわかって良かった
- ・クサアジサイ、ミヤマナミキ、ムラサキニガナが解って良かった
- ・二の鳥居近くの滝の傍のユキノシタがとても綺麗だった。
- つる植物の話が良かった。葉で識別するのは上級者向けだった。
- ・時間は短かったが一人だと知らないで通りすぎていたものが解って良かった、皆さんの後をくっついて歩いて楽しかった

・土砂降りの雨が降る前に御岳駅のホームに行けて濡れずに済んで良かった。

◆ 7月の植物観察会のポイント

● つる植物の種類と仕組み

夏になるとグングン伸びるものにつる植物が有りますが、巻き付き方にいくつかの種類があります。

① 寄り掛かり型

ツルがそのまま伸びていき、他の植物の枝などのすき間を縫って、寄りかかるようにして登っていきいます。

ヒヨドリジョウゴ、ツルウメモドキなどのつる性の多年草や低木と言われるものに多く、ツルが登るための特別な工夫がない、最も原始的な形と言えます。

寄り掛かるものが有るとツルが安定して、そこから更に上へ伸びていきます。

② 巻き付き型

ツルが他のものに巻き付いて登っていく一般的なタイプです。

ツルの先端が回旋運動をして巻き付くものを求めます。

幾代会のホームページの会員の活動に小沢さんに投稿してもらった「クレマチスのラジオ体操」が有るので参考に見てください。

接触刺激した部分は抵抗で伸びず反対側が伸びるので巻き付いていく。

③ 鉤掛け型

カギやトゲや毛などで他の植物に引っかけて登っていきます。

アカネ科のカギカズラ、ツルバラ、アサ科のカナムグラ等がこのタイプで、引き戻されずかなり確実性が高い登り方と言えます。

④ 巻きひげ型

ブドウ科、ウリ科、マメ科など多くの植物に見られます。

小葉、枝、托葉、葉身等が糸状に成り、触手のように伸ばして絡みつき、植物を安定させて上昇していきます。

一旦絡みついた後に中間点付近を起点に逆方向に巻いてスプリングのように成り植物を高度に安定させるタイプも有ります。

⑤ その他

木の幹や岩盤などに根や吸盤などによって付着してツルを伸ばします。

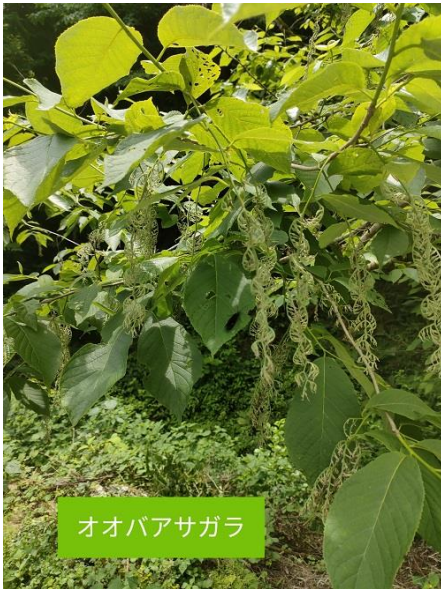
付着根はキヅタ、ツタウルシ、ツルアジサイなどが有ります。

吸盤はブドウ科のツタで枝が蔓状に変形して巻きひげとなり先端が膨らんで吸盤となり粘液を分泌して密着します。

● つる植物の朝顔がずり落ちない訳

① ツルがずり落ちない原動力はツルが上へ伸びる成長力で、強く巻き付く力が有る

② ツルには下向きのケガ生えていて抵抗でずり落ちないように成っている



オオバアサガラ



ヒメフウロ



オオバナノエンレイソウ

◆散策路の植物

7月の幾代会の観察会は連日の猛暑続きで当日のキャンセル2名と体調不良の1名は青梅駅で引き返すことになりました。お大事にお大事に。そして参加出来た大事な用心棒の男性はナント羽深さん一人です。

御嶽駅からバスに乗りケーブル下で下車し、6名がニッコリご挨拶。

先ずは大沢川の川岸で沢の音を聞きながらオオバアサガラの果実を木陰で観察。

それにしても風に揺れるかんざしのような面白い形です。

「大葉麻殻」の由来は葉が大きいアサガラのこと。アサガラとは「麻殻」の意味で、樹木の材質がもろく折れやすい皮をはいだ麻の茎「おがら」のようであることによります。

そういえば迎え火に「おがら」を使うお盆がもうすぐです。

続いて石垣に生えるヒメフウロの観察。

ヒメフウロの雄蕊の葯は赤、うすピンクと黄色の3タイプがあると説明し、小さな雄蕊をじっくり確認しました。

確かに色の違う葯を見つけて感動！！

続いて昭和13年に出来たレンガ造りのアーチ橋の襖橋を渡り、大きなコンクリート製の二の鳥居をくぐります。

石碑の下にオオバナノエンレイソウの果実。

スプリング・エフェメラル（春植物）で花が咲くまでに驚きの10年もかかります。

参加者で地面を観察すると単葉の若い苗や三枚葉の苗を無数見ることが出来ました。

種にはエライソソームが有りアリが散布すると説明したら、好奇心旺盛な大村さんがチョット舐めてみました。

ほんのりと甘かったそうです。



マタタビ

大沢川には葉先から白くなったマタタビ。
葉影には雨が当たらないように白い花がひっそりと訪虫を待っていました。



キヨスミトゴケ

滝しぶきが当たるツツジにはコケ類のキヨスミ
イトゴケが枝からぶら下がり10c前後で垂れ
下がっていた。

枝がふんわりとした緑のレースをまとったよう
です。

ちなみによく似たサルオガセは亜高山帯のブナ
林に生育します。

滝の周辺ではびっしりとユキノシタが成育。

由来は雪が上につもっても、その下に枯れずに緑
の葉があるからとする説や、白い花を雪（雪虫）
に見立て、その下に緑の葉があることからとする
説。このほか、葉の白い斑を雪に見立てたとする
説、垂れ下がった花弁を舌に見立てて「雪の舌」
とする説とイロイロ有ります。

どれが覚えやすいでしょうか？

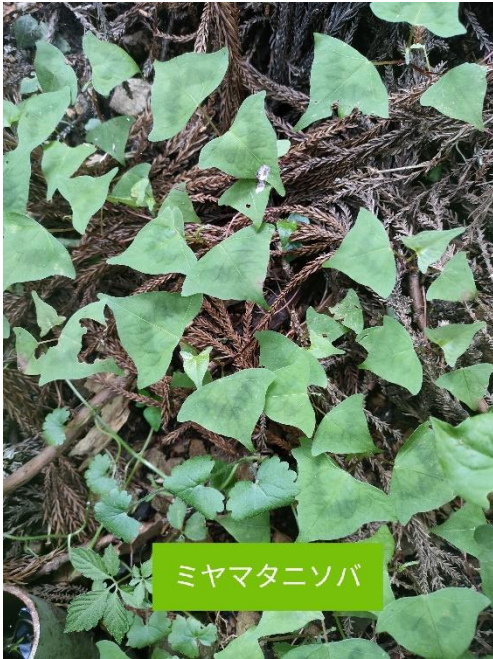


滝本の大杉

登りの参道脇には、どっしりと根を張った滝本の
大杉の巨樹。

頑張って登ってくださいと言われていたような
気がしました。幹回り6.1m樹高45m
ビジターでセッコクが付いていると教わり、探し
ましたが花が無いので見つからず残念。

御岳登山鉄道が御岳山の銘木巡りとして選定し
た1本です。



他には神代櫨、天狗の腰掛杉、お浜の桂、大藤など 10 数本が有ります。

更に参道を登ると左側の湿った場所に特徴的な三角形のような葉のミヤマタニソバ。タデ科で左右対称の斑が入っています。

今日の観察会のポイントは「クサアジサイを求めて」です。

下見の時は蕾だったのですが今日はどうでしょうか？

左下が 6 月 20 日の下見で蕾。

右下が 7 月 3 日の本番で開花です。

私達が行くのを待っていてくれたのですね。



クサアジサイはユキノシタ科の多年草。葉は互生し、柄（え）があり、葉身は薄質で、長楕円（ちょうだえん）形、縁（へり）に鋭い鋸齒（きょし）有。

7～9 月、茎の先に多数の白色または淡紅色の花をつける。花序の周りには花弁状をした 3 枚の萼片（がくへん）からなる装飾花が有る、白色または淡紅色。両性花は小さく、径 6～7 ミリメートル、5 枚の花弁と、約 20 本の雄しべ、3 本の花柱がある。山地のやや湿った林床にみられ、本州、四国、九州に分布する。

更に登って 2 株のクモキリソウを見つけ、ろくろっ首を過ぎて早々とランチタイムにしました。

太田さんから冷えたパイナップルの差し入れを貰い、全員が元気を取り戻せました。

ゆっくりと木陰で座ったまま、そこに見えるまだ花の無い植物を解説。

キバナアキギリ、ヌスビトハギ、ノブキ、ムラサキニガナ・・・・・・・・

距離がわずか 10m ぐらいの緩やかな斜面ですが私が座っていた下側にはキバナアキギリ、そして土方さんが座っていた上側にはヌスビトハギが多く生えていました。

良く観察すると、わずかな環境の違いで植物は明らかに住み分けていたのに驚き！ついでにポイントに書いたつる植物の生きる知恵を説明。

お天気がチョット心配されたので早々と下山することにしました。

すたすた歩き、ケーブル下のバス停には丁度、バスがいたので乗車。

御嶽駅のプラットホームに着くと傘も差せないような横殴りの土砂降りの雨です。

幾代会の皆さんは本当に常日頃の行いが良いですね。



バスが来たので観察そびれたヤマグルマ。ヤマグルマ科ヤマグルマ属の 1 科 1 属 1 種の植物です。

別名、トリモチノキともよばれ、トリモチが取れることで知られ、東アジア特産の被子植物の木本です。

ヤマグルマは他の広葉樹と異なり、針葉樹と同じく仮道管によって水を吸い上げる機構を持つので寒気の強い亜高山帯や乾燥した岩場、豪雪地帯にも適応できます。

いろいろな性質を持った植物が生息し、まさに生物多様性です。

写真は下見時で未熟な果実が付いています。

今日も一日、暑いのに疲れ様でした。

来月の観察会は巨樹と涼を求めて日原に行きます。

越前記